

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

太陽の村冒険遊び場キッズバイクパークを核とした交流人口拡大事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県柴田郡柴田町

3 地域再生計画の区域

宮城県柴田郡柴田町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

・人口減少社会を迎え、これからは交流人口や関係人口の拡大が求められている。近年の国の政策によるインバウンドの増加もあり、宮城県の観光客入込み数はH30年に過去最高の64百万人（対前年比103.1%）、柴田町でも“花のまち柴田”をテーマとした観光事業を進め533千人（同103.3%）に達している。太陽の村は、柴田町を代表する観光地の1つではあるが、入込み客数31,147人（同98.0%）で微減となっている。

・遊具の整備やレストランの開設等、利用者の利便性向上に取り組んで来たが、施設の老朽化や陳腐化の影響もあり、利用者の増加等の目に見える効果は発現していないが、施設がリニューアルされ、その大きな要因は解消されるものと思われる。

・一方、遊具整備等の取組みによる新たな効果として、利用者の客層が子育て世代中心に変わりつつあることが挙げられる。利用者同士のSNS等の結び付きもあり、複数の家族で訪れる事例も増えている。町内にも子育て支援施設や公園等はあるが、総体的に子育て世代同士が交流できる機会、施設は少ないことから、この施設を有効に活用することが求められる。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

・太陽の村での遊びを通じた子どもの体力の向上と健康づくりという目標の実現に向けて、幼児から小学生を対象とした新たな遊び・スポーツのコンテンツ（「木育」、「キッズバイク（MTB含む）」）を導入することで施設の魅力を高めるとともに、町内外からの子育て世代の誘客を図り、交流人口の拡大と施設の収益増を目指す。

・同時に、施設に訪れた利用者に対し、太陽の村の宿泊・研修施設（キッズ遊びの棟）を生かしたグリーンツーリズム事業の体験（農業、調理、食育：以下GT事業）や各地区の直売所、加工所をめぐるツアー（以下里山ビジネス事業）、里山や自然に親しむ里山ハイキング等のサービスを提供し、太陽の村以外の町の資源や魅力を知っていただくとともに、定期的に柴田町に訪れる機会を増やすことで、町全体の交流人口の拡大と移住・定住の促進に向けた動きにつなげる。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020年度増加分 1年目	2021年度増加分 2年目
太陽の村 事業収入（宿泊、レストラン、障がい者施設他）(千円)	26,012	750	750
太陽の村 入込み客数(人)	31,147	1,500	1,500
体験交流イベント参加者数(人)	0	50	50

2022年度増加分 3年目	K P I 増加分 の累計
0	1,500
0	3,000
0	100

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

太陽の村冒険遊び場キッズバイクパークを核とした交流人口拡大事業

③ 事業の内容

・現在、地方創生拠点整備事業では「太陽の村冒険遊び場キッズバイクパーク整備事業」として、“太陽の村での遊びを通した子どもの体力の向上と健康づくり”という観点から、施設のリニューアル（宿泊・研修施設、キッズバイク保管施設）や常設コースの整備、用具の購入を進めている。

・整備完了後は、太陽の村の“キッズバイクパーク”としての認知度を高め、施設利用者を増やすことが求められている。このため、通常の営業（コース・バイクの貸出し）とは別に、キッズバイク利用者の底辺拡大を図るため、①体験講習会を開催し、町内のみならず近隣市町を含めた子ども達に対し、広く参加を呼びかけること。加えて、②仙台市や山形市、福島市にも近い地理的条件を活かし、近県からも参加可能なレース大会（参加者300人規模）を定期的に行うことを目指している。

・併せて、キッズバイクで訪れた利用者に対し、太陽の村や町内の資源を活用したGT事業や里山ビジネス事業、里山ハイキング等を新たなサービスとして提供し、町の魅力を知っていただくことで、定期的に柴田町に訪れて貰う機会を増やしたい。その活動拠点（研修・宿泊）として、当該施設を活用する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

・事業主体である（一社）観光物産協会は、遊具やキッズバイクでの遊

びが、子どもの体力向上や健康づくりに有機的に結び付くように、有効なイベントを定期的に企画・誘致・開催する。このことにより、保護者を含めた子どもの利用が増え、宿泊やレストラン等の収入が安定したものになる。

- ・キッズバイク関連施設では、コース・バイク・用具等のレンタルを行い、運営・維持管理の財源を確保する。

- ・キッズバイク関連で訪れた利用者がリピーターとして定着するよう、新たに開発したGTや里山ビジネスのイベントを実施する。事業では、キッズ遊びの棟を活用（宿泊・研修）する。

- ・拠点整備交付金事業では、施設全体の入込み客数が増加すると、レストランや障がい者施設の利用者が増え、最終的に施設全体の売上げが年間5,000千円以上増えることを見込んでいる。当該推進交付金事業を実施することにより、更に入込み客数・売り上げとも上乘せが図られ、自立性も高まる。

【官民協働】

- ・柴田町と事業主体である（一社）町観光物産協会をはじめ、太陽の村冒険遊び場整備推進協議会、仙台大学、町総合型地域スポーツクラブ等が有機的に結びつくことで、“遊びを通した子どもの体力の向上と健康づくり”という施設が目指す目標の実現が可能になる。

【地域間連携】

- ・柴田町は宮城・仙南インバウンドDMO推進協議会（仙南地域2市9町）等と連携したキッズバイクや自転車ツーリズムのイベントを開催することで、太陽の村のPRと魅力（子どもの遊び場、自転車ツーリズムの拠点施設、宿泊研修施設）のアピールを行う。

【政策間連携】

- ・当該事業では、“子どもの遊びを通した体力の向上、・健康づくり”に関して、農業や商工・観光業、学校・社会教育、保健福祉、子育て支援等の政策・担当部署・団体が密接に連携しており、総合的な効果が期待できる。

- ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））
4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

・事業主体である（一社）柴田町観光物産協会は、指標値の達成状況を毎年作成し総会に諮る。その後、行政と観光物産協会が同席し、柴田町総合戦略推進委員会がヒアリング等を行い、事業の検証と推進委員会との相互理解を図る。その結果を基に、観光物産協会は、PDCAサイクルにより各事業に取り組む。

【外部組織の参画者】

・産官学金労言等の各界から委員12人で構成された柴田町総合戦略推進委員会により検証を行う。また、検証会議は、原則公開で実施する。

・委員会構成／産5人（商工会員・工場等代表、女性起業家、農業従事者、観光業者）、官1人（宮城県）、学1人（仙台大学）、金1人（金融団代表）、労1人（町内労働組合）、言1人（インターネット会社代表）、その他2人（町内新規就業者、福祉関係会社代表）

【検証結果の公表の方法】

・町広報誌、HP上で公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】
総事業費 7,900千円

⑧ 事業実施期間

2020年4月1日から2022年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 太陽の村冒険遊び場キッズバイクパークサポート事業

ア 事業概要

・町は、太陽の村冒険遊び場整備推進協議会、仙台大学、総合型地域スポーツクラブ、サイクルカー等と連携し、子供から大人までがサイクルスポーツに親しめるメニュー（キッズバイク、子ども自転車教室、アップダウンを活用したコース里山サイクルクライム大会）の提供や遊具の整備、木育教室、レストランメニューの拡充等、太陽の村への集客環境の整備を行い、にぎわいづくり・交流人口の増に取組む。

イ 事業実施主体

2に同じ

ウ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2023年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。